


金管バンドの楽器編成

金管バンド (トランペット(コルネット)+金管中低音楽器+打楽器)

金管バンド35人編成例



E♭コルネット	1
トランペット (コルネット)	12
フリューゲルホルン	1
トロンボーン	4
アルトホルン	4
バリトン	2
ユーフォニアム	2
E♭チューバ	2
B♭チューバ	2
打楽器	5
ティンパニ1セット (3~4)	

●編成について

標準的な楽器構成は、トランペット(またはコルネット)、アルトホルン、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ+打楽器です(ファンファーレバンドにアルトホルン、ユーフォニアム、チューバが加わった形態)。編成に絶対的な基準はなく、柔軟に考えればよいのですが、人員配分は、できれば各パート2名以上にすれば、1人1人の負担が少なくなり、音の響きが作りやすくなります。

●音楽面での特長

ソプラノからバスまで揃い、音域は4オクターブにおよびます。艶のある響きのトランペット(コルネット)に、アルトホルンやユーフォニアムの柔らかい響きが溶け合い、さらにバスの重厚な響きが重なり、金管合奏特有の輝かしいサウンドが生まれます。屋内演奏、マーチング活動ともに充実し、学校内外で活躍の舞台が広がります。

●移行のポイント

トランペット鼓隊、ファンファーレバンドを経験しており、より発展的編成を考えている学校におすすめします。この段階を経ず一足飛びに金管バンドを導入することも可能です。

●トランペットとコルネット

金管バンドは、トランペット鼓隊やファンファーレバンドから発展したものが多いため、ソプラノパートはトランペットで編成されることが多いのですが、新しく編成するか、買い替えをする場合には、コルネットをおすすめします。

コルネットは、トランペットと音域が同じで、運指もまったく同じですが、円筒形のトランペットに対し、コルネットは円錐形の楽器ですので、音色が柔らかく、他の楽器とも、よく調和します。

●中・低音楽器の増強

金管バンドの編成にあたっては、中・低音の増強を第一に考えましょう。トランペット鼓隊から始めた学校では、中・低音楽器が不足しがちです。バンド全体に安定感を持たせ、快いハーモニーを作り出すには、中・低音楽器の増強がキーポイントとなります。



金管バンド編成例

楽器名	編成数		
	35人	50人	70人
トランペット (コルネット)	12	18	24
E♭コルネット	1	2	2
フリューゲルホルン	1	2	2
アルトホルン	4	6	8
トロンボーン	4	—	—
テナートロンボーン	—	4	8
バストロンボーン	—	2	2
バリトン	2	2	6
ユーフォニアム	2	4	6
E♭チューバ	2	2	2
B♭チューバ	2	2	4
バスドラム	1	1	1
グロッケン	1	1	1
シンバル	1	1	1
スネアドラム	1	2	2
ティンパニ	1	1	1